解剖教育研究施設

医歯薬学総合研究科　解剖学および発生生物学研究室　青山裕彦

この施設は，もともと広島大学医学部で行われる解剖の全て，すなわち正常解剖，病理解剖，法医解剖を行うものとして建てられました．この中で，学生が行う人体解剖学実習は正常解剖に含まれ，これについては，医学部だけでなく歯学部も利用しています．現在は後述の改修を契機に，病理解剖関係が完全に病院等に移り，正常解剖と法医解剖のみが扱われるようになりました．今回は私どもが担当しております，正常解剖についてお話しいたします．

広島大学医学部歯学部で行われている正常解剖のためのご遺体として，年間80 ～ 100体をお預かりしていますが，これは全て自らの遺志で「献体」されたものでぢ糜き

2500名前後に上ります．白菊会は，会員が個人的に行う日常的な会員相互の交流や周囲への案内など，会員それぞれの地道な活動と，会として，年に2回の理事会，年1回の総会を行っております．一方，大学は，献体者慰霊祭，遺骨返還式を主催しております．白菊会総会，慰霊祭，返骨式は，いずれも大規模なものですから，解剖班の技術職員を含む教職員をはじめ，学生も動員して準備します．

遺体の受け取りから実習の実施，終了後の火葬に向けての出棺に至るまで，ご遺体に関する具体的なことがらの全ては当施設内で行われ，その大部分は解剖班の技術職員に負っています．会員が亡くなられたとき，通常は葬儀を済まされた後，火葬場に向かう代わりに大学へとやってこられます．施設は24時間体制で受け入れておりますが，夜間・休日の場合は1階の献体受け入れ口をはいったところで，いったん，冷蔵遺体保管庫に安置しています．遺体の処置は，施設1階の遺体処置室で行います．固定（ホルマリンを主とする保存のための液を動脈から注入する），脳出し（脳は固定によって硬くなると取り出しにくくなるので，固定後速やかにとりだす）の後，迅速固定装置の中で，37度に加温しながら50％アルコールに約1ヶ月，浸漬します．その後，密閉した袋に納め，遺体保管庫に安置します．この状態で実習まで1-2年保管していますが，10年以上大きな変化なく維持することもできます．遺体保管庫は1階の遺体保管室に96体，2階の旧・解剖学実習室に45体分を用意しています．年間の受け入れ体数から行くと1年半でいっぱいになることになり，いつ，収まりきれなくなるか，いつも不安を抱えています．

実習は，3階の解剖学実習室で行います．実習に先立って，どなたから解剖するか技術職員と担当教員とで相談します．解剖は，原則，受け入れ順に行いますが，実習に際して男性と女性のバランスなどいくつか考慮すべき点がありますので必ずしも順番通りとはなりません．先に亡くなられても，お骨をお返しするのが後になることもしばしばあります．また，実習期間は1年の中でも特定の時期に行われますので，亡くなられてからちょうど何年後にお返しできるという計算も難しく，ご遺族のご心配には申し訳なく思っております．

実習の開始時には，学生は，人体解剖の歴史，法律，篤志献体についての講義，さらには，白菊会員の講演を聴き，これが人体解剖学実習の

意義を考える機会となっています．ご遺体は保管庫から実習室まで学生の手によって運ばれます．3 ヶ月にわたね擡碍

改善効果は極めて大きなものでした．時折，かつての実習を経験した学生や卒業生が実習室を訪れ，その違いに驚いているくらいです．

学問の進歩，技術の発展によって正常解剖のあり方も変わってきます．しかし，その根本にあるのは，ヒトの体を直接見る，という行為であり，倫理的にも科学的にも常にそこに戻ってきます．当施設はそれを保証するために，今後もご遺体をお守りし続けていきます．